

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070300647		
法人名	有限会社 八起		
事業所名	グループホーム 新池		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市戸畑区新池三丁目3番19号 (電話) 093 - 871 - 4341		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴二丁目5 - 27		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 7 人	非常勤 6 人 常勤換算 7.8

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 57 歳	最高 100 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧山中央病院 野田内科 循環器科クリニック
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い幹線道路沿いに、元料亭を改築したグループホーム新池がある。玄関周りを季節の花で飾り、家庭的な雰囲気である。玄関を入ると利用者が可愛がっている猫の歓迎を受ける。エレベーターで2階の居間に行くと、利用者と職員が自由な雰囲気の中で、楽しそうな会話が聞こえてくる。オーナー、職員は「利用者の住み慣れた町で家庭的な環境の中で自分らしくいつまでも家族の一員として、暮らしていく」という目標を共有し、利用者一人ひとりのペースを尊重し、やさしく見守りながら支援している。ホームの隣にオーナーが住んでいて、地域住民から介護に関する相談等も多く、交流も活発である。また、ターミナルケアの指針を作成し、利用者や家族が安心して日々を過ごせるように職員全員で努力しているグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価改善点は3件あった。「評価の意義の理解と活用」は職員が経過表の記録に追われ自己評価作成にまで手が回らない。「職員を育てる取組」は新しい管理者が意欲的に取り組んでいる。「災害対策」では避難訓練など実施しているが非常食、飲料水などの備蓄がない。今後は事務処理を簡素化し、職員は出来るだけ多くの時間を利用者で過ごす努力が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価についてオーナーは職員に説明し、理解を得て、自己評価票を作成している。今後は自己評価票を職員に配布し、一人ひとりが評価作成に取り組んでいくことで、ホームの現状を再発見することに繋げていくことが望まれる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回開催し民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、オーナー、職員が参加し、ホーム側からは現状と問題点、行事案内、今後について等を説明し、参加者からは質問や介護の相談等があり、内容のある会議になりつつある。今後はホームの運営に関することなども議題にしていくこと等の努力が望まれる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月利用料の支払い時に、家族に利用者の近況報告する際に、意見、苦情、要望等を聴き、対処できることはすぐに実行し、出来ないことでも家族の不安が少しでも解消できるように工夫している。今後はホームと家族の交流をより密にし、なんでも話せる関係を構築していくことが望まれる。</p>
重点項目	<p>オーナーが50年間住み慣れた地区で暮らしているため、町内会や地区の防災協会に加入し、地域のふれあい交流会、敬老会に参加して、積極的に地元との交流を図っている。また、玄関には地域の方がいつでも気軽に来訪出来るように、10時と15時のお茶の時間の案内を掲げ、介護に関する相談等も実施している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と職員は家族の一人として、支え合って暮らし、利用者の住み慣れた地域で生活できることを理念の柱にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実践するために、オーナーは職員一人ひとりと面談し理念を理解し、具体化し、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員会主催の「ふれあい交流会や敬老会に参加し、近所の喫茶店でケーキとお茶で談話したり、地域住民が来訪しやすいように10時と15時のお茶の時間を玄関に掲示し、介護に関する相談等も実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義はオーナー、管理者、ケアマネジャーは理解しているが、他の職員は、経過記録のチェックと記載に多くの時間を費やしているため、評価の意義の理解と活用が難しく、自己評価の作成には至っていない。		職員が、必要以上に膨大な資料作成に時間を取られ、自己評価作成まで、手が回らない状態である。利用者の経過表作成も大切だが、職員一人ひとりが評価の意義を理解し、少しずつでも自己評価作成に取り組むことが望まれる。新しい管理者のもとで職員が一丸となり、利用者のための介護を目指すことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は地域住民の協力や理解を得て、活発に意見交換が出来、介護サービスの質の向上やホーム運営に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に包括支援センターを訪問し、行政関係者との関わりが少しずつ確立している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在2名の成年後見制度利用者があり、管理者や職員は制度を理解し、利用者や家族等に説明することが出来ている。また、パンフレットや資料も用意している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の支払い時に家族に口頭や電話で利用者の近況を報告している。利用者の緊急時や病院受診等はその都度報告し、また3ヶ月毎にホーム便りを作成し、配布している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口と担当者を明記し、いつでも家族からの意見や要望を聞き、利用者や家族が安心して過ごせるように迅速に対応している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあるがオーナーと職員全員が、利用者のダメージを最小限に抑える努力をしている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は年齢、性別の制限はしていない。休日は職員の希望を取り入れて勤務表を作成し、充実した職場環境実現のために努力している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	職員会議の中で、人権に関する勉強会やビデオ観賞を行い、啓発活動に繋げている。		
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修会参加のために勤務シフトを変更したり、働きながら学ぶことが出来るように、多様性のある取り組みをしている。		外部研修参加者は限られたメンバーの参加の為、職員全員が参加することは困難である。外部研修を受けた職員は資料や記録を職員会議の中で内部研修として説明し、全員で共有出来るようにしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	戸畑区地区のグループホーム連合会で交流し、相互訪問を行い情報交換している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や体験入居を通じてホーム入居者や職員と馴染みの関係づくり、入居希望者や家族の不安を、少しずつ取り除きながら納得を得て入居している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者職員は掃除、洗濯、食事の後かたづけ、食器拭き、花壇の手入れ等、手伝ったり、手伝ってもらったりの関係で支え合いながら共に暮らしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりのその日の状態を把握し、今日は何をしたいのか、何を食べたいのか等を聴いて介助している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎に利用者や家族、職員とカンファレンスをし、話し合って実施している。また、毎月職員会議を開きカンファレンスを実施している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護経過表を詳しく記録し、利用者の状態変化を敏感に把握し、随時家族に連絡をし、現状に即した見直しを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院、施設訪問や買い物、喫茶店でケーキを食べたり、ドライブ、独居家族の集まりに参加する等、ホーム独自の多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者、家族の希望を優先して決めている。オーナーと同級生の医師が近くで開業しているため24時間365日いつでも携帯で連絡が取れ、臨機応変に対応してもらっている。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を作成し、利用者本人と家族、かかりつけ医と常に方針を共有し、終末期に向けた支援体制が確立している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、さりげない言葉かけや対応に配慮し、見守りながら支援している。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの一日の生活のリズムを把握し、その日に本人の希望を優先するように努力しているが、介護計画と経過表の項目達成に重点を置き、自由にその人らしい暮らしを支援するまでには至っていない。		職員の頑張りはよくわかるが、心身機能の維持、向上を目指すための経過表作成に重点をおいた介護は、本来、オーナーが考えている利用者本位の、自由で、その人らしく暮らすという方針から逸脱しているように思えるので、原点の理念に戻り、管理者、職員で話し合うことが望まれる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	元料亭の食事は、調理、味付け、盛り付けが工夫しており、利用者の食欲は見ていて気持ちが良い。後片付けは、出来る利用者が中心になって楽しい雰囲気である。ホーム独自の介護経過表のチェックが大変で、食事時間中一人の職員が取り組んでいる。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週4回で、出来るだけ利用者の希望の時間に入れるように努力している。入浴をしたがらない利用者は、オーナーの担当で、ドライブや散歩等で気分を変え、入浴したくなるような演出をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は職員と一緒にゲームや歌、裁縫、洗濯物干し、たたみ、犬、猫の世話、掃除、買い物、家族との外出など日々の生活の中で、楽しみ事を見つけ、気持ちよく過ごしている。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的な行事による外出だけではなく、季節を五感で感じてもらうように、散歩や花の手入れ等でホームの周りを散歩したり、隣人と馴染みになったり、戸外で気持ちよく過ごせるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。管理者、職員は日中鍵をかけられて外に出られない状態で暮らす弊害をよく理解している。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災協会に加入し、毎年、消火訓練や避難訓練を実施している。ホームの隣にオーナーの家があり、いざという時は、4～5人が駆け付けてもらえるのは心強い。		消防訓練は、地域の住民の協力を得て参加してもらい、非常災害時の非常食や飲料水、毛布等の備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同級生のかかりつけ医に相談し、利用者一人ひとりの健康状態で、栄養や水分の摂取量を指導してもらい、介護経過表に記録し、必要な食事や水分が取れるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、食堂、風呂等共用部分は利用者が居心地よく過ごせるように、職員と一緒に作成した物を壁に掛けて、季節感を出し、光の強弱もブラインドで調整したり、臭いにも気をつけて換気し、利用者一人ひとりが、居心地よく暮らせるように配慮している。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室介護ベツを設置し、安全に配慮している。他の道具はほとんど利用者の馴染みの物を持ち込み、居心地よく暮らせるように工夫している。また、利用者の希望の物を持ってきてもらうように家族に連絡し、部屋の中が違和感のないように支援している。		